様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2016～2019
課題番号：１５ＫＫ００９４

研究課題名（和文）ポスト共産主義諸国の政治・行政・経済エリート：ロシアとウクライナ（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Political, Executive and Economic Elites in Postcommunist Russia and Ukraine (Fostering Joint International Research)

研究代表者
大串　敦（Ogushi, Atsushi）

慶應義塾大学・法学部（三田）・准教授

研究者番号：２０４３１３４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,000,000円
渡航期間：　24ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、ロシアとウクライナの政治・行政・経済・エリートを比較分析するために、ヘルシンキ大学のアレクサンテリ研究所を中心にネットワークの構築を図るものであった。この目的は達成されたといえる。まず、アレクサンテリでセミナーを行い、ペーパーは国際的査読誌に受理された。また、アメリカ・ドイツ・ウクライナ・フィンランドなどの著名な研究者を招いてアレクサンテリでワークショップを組織し、好評を得た。さらに、同ワークショップに参加した若手研究者を日本に招きワークショップとセミナーを開催した。さらに、ウクライナとフィンランドの研究者とともに、スラヴ・ユーラシア東アジア学会でパネルを組織し、好評を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究課題では、ロシア・ウクライナ政治エリートを研究するために国際的なネットワークを構築した。ヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所の研究者やその他の多くの海外研究者と国際ワークショップを組織した。その研究成果の日本への還元も行われ、日本でも海外研究者を招聘してワークショップを組織したほか、日本で行われた国際学会でも共通のパネルを組織した。研究代表者の研究が国際的査読誌に受理されたほか、他の参加者のペーパーも国際的な査読誌に受理されたことから、研究成果が一定の影響を持ったといえよう。

研究成果の概要（英文）：This research project was an attempt to construct a research network for researching elites in Russia and Ukraine, staying in the Aleksanteri Institute of Helsinki University. The results are more than satisfactory. I presented a paper on Ukrainian elites to a seminar in Aleksanteri, which was later accepted by Europe-Asia Studies; An international workshop was organized in Aleksateri, inviting several leading scholars from the US, Germany, Ukraine, and Finland; A workshop and a seminar were organized also in Japan by inviting the participants to the Aleksanteri workshop. A panel on Ukrainian politics in the East Asian conference on Slavic Eurasian Studies, together with Finnish and Ukrainian scholars.

研究分野：比較政治学、ロシア研究、ウクライナ研究

キーワード：エリート　ロシア　ウクライナ　国際共同研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究課題の背景は、ロシアとウクライナの政治・行政・経済エリートの比較研究を行う研究プロジェクト（科学研究費補助金課題番号 26380183、以下先行研究課題とする）の国際協力による促進を図るものであった。先行研究課題が直面した大きな問題は、申請当時予測できなかったウクライナ危機(2014 年)により、ウクライナのドンバス地域が戦争状態に陥り、予定していたドンバス地域での現地調査が現実的には不可能になったことであった。

そこで、日本とロシア、ウクライナでの調査のみを想定していた遂行中の研究計画を拡大し、第三国の世界的な研究機関での長期滞在と、その他近隣諸国の研究所との提携を視野に入れることになった。ロシア・ウクライナ研究で世界的に指導的位置にあるフィンランドのアレクサンテリ研究所（ヘルシンキ大学）で長期的な調査を行い、さらにロシアとウクライナの主要研究所を訪問し申請者との間でネットワークを作ることで、研究の進捗状況を改善・発展させることを構想した。

２．研究の目的

研究の背景を受け、本研究課題の目的は、ロシア・ウクライナのエリート研究の国際的ネットワークを構築し、アレクサンテリ研究所から、世界のロシア・ウクライナのエリート研究を糾合し、その成果を世界的に発信し、その研究成果を日本の研究にも還元することを目的としていた。

３．研究の方法

研究の方法としては、アレクサンテリ研究所で、国際ワークショップを開催し、世界で先端的な研究を行っている米、英、独、露、ウクライナの研究者の研究者のネットワークを構築し、その成果を公刊することを目指した。

さらに、ワークショップ参加者から特に若手研究者を日本に招聘し、日本でもワークショップ及びセミナーを開催して、その成果を日本に還元することを試みた。加えて、本研究課題申請当初は不明だった、スラヴ・ユーラシア研究東アジア学会の 2019 年大会が日本開催に決まったことから、助成期間を一年延長し、アレクサンテリ研究所所属のウクライナ研究者と他機関所属のウクライナの研究者とともにパネルを組織し報告することとした。

４．研究成果

本助成期間に、論文 6 本(うち国際的査読誌の英語論文 2 本含む)、学会報告 6 回(うち 5 回は国際学会)を行った。加えて、アレクサンテリ研究所で国際ワークショップを組織したほか、同研究所でのセミナーでの報告、日本での国際ワークショップとセミナー組織を行った。

研究代表者自身の研究成果やワークショップからは次のような学術的成果が得られたと考える。第一に、これまでのエリート研究には、エリートの旧体制からの連続性や、社会的出自、軍・治安関係者どうかといった経歴の研究に特化するきらいがあったが、官僚といった行政エリートの研究を促進する必要があり、その端緒が開かれたことである。アレクサンテリ研究所でのワークショップで、ロシアのエリート研究を概観した Rutland が、官僚機構がまだ十分に調査されていない領域であると指摘したほか、研究代表者自身がロシアの省庁の次官の研究を報告した際に指摘した点でもある。またドイツの Burkhardt の報告もロシアの官僚制がどれだけ家産的であるかを検討したものであった。

第二に、ロシア・ウクライナのエリート研究には、グローバル化といった外部要因の検討が必要であるといえる。アレクサンテリのワークショップで報告した Melnykovska は、ロシアやウクライナの経済エリートの発展に、先進国の国際金融市場から流れる資金が大きく寄与していることを指摘した。これまでの経済エリート研究が、国有財産の私有化といった国内的な問題ばかりから接近するきらいがあったが、経済のグローバル化との関係を考察する必要性を指摘した点で、今後の経済エリート研究に大きな風穴を開けるものであったといえよう。

第三に、ロシアに比べてまだ研究の蓄積が学界全体としても浅いウクライナに関して、研究代表者はいくらかの研究を行うことができた。まず、東部ウクライナ(特にハルキウとドニプロペトロウシク)の政治エリートの動態を検討し、行政的資源を失った政治マシーンが危機に陥る過程を明らかにした。また、従来通りの行政的な資源に基づいた動員が困難に直面している様を、2019 年のウクライナ大統領選挙と議会選挙へ向けた展開の中で論じた。これは、研究代表者が現在研究を遂行しているウクライナの政治体制論の基礎をなすものともなった。

第四に、中央レベルだけではなく、地方レベルの政治動態の研究の必要性である。研究代表者はウクライナの地方レベルの政治動態を明らかにしたが、日本で行ったワークショップでは、日本の研究者によって比較的研究蓄積のある州などの連邦構成主体レベルだけではなく、市・郡などの地方自治体レベルに至る実証研究の成果が報告された。また、スラヴ・ユーラシア研究東アジア学会では、アレクサンテリ研究所からの参加者が、研究が極めて少ないルガンスク人民共和を扱ったほか、ウクライナからの参加者はウクライナの地方制度改革を分析した。こうして、ロシアのみならず、ウクライナ研究でも中央レベルのみならず地方レベルの分析が重要であることに合意が形成されつつある。

本国際共同研究期間の研究代表者の研究成果が持ったインパクトに関して付言する。アメリカのスラヴ・東欧・ユーラシア学会（2016）と英国スラヴ・東欧研究学会（2017）に提出したペーパーは Russian Politics に受理された。本論文は、ロシアのポピュリズム研究で著名な J.

Lassila(2018)によって言及された。また、アメリカの同学会に 2017 年に提出し、アレクサンテリ研究所で報告（2018）したペーパーは Europe-Asia Studies に受理され、間もなく公刊される。また、書評であるが、ロシアのエリート研究をした書籍の書評をアメリカのロシア研究を代表する雑誌 Russian Review に依頼され、掲載された(2016)ことは、研究代表者のロシアエリート研究が一定の国際的承認を得ている証明といえよう。また、かなりの数の国際学会報告を行ったことから、本助成全般の国際的な研究発信の点ではかなりの成果があったと考える。

さらに、研究代表者が国際協力した研究者の成果に関して述べておく。国際ワークショップに提出されたペーパーはその後著名な学術出版から公刊されたり、著名な国際ジャーナルに受理された(例えば、Peter Rutland, ‘The Political Elite in Post-Soviet Russia’; Yuriy Matsiyevsky, ‘Revolution without regime change’; Taras Kuzio, ‘Russian and Ukrainian elites’)。また、スラヴ・ユーラシア東アジア学会に提出されたウクライナ地方制度改革の論文も書籍の 1 章に収められることが決定している。国際的な研究ネットワーク形成による研究成果の発信という点でも一定の成果を見せたといえる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Atsushi Ogushi	４．巻 -
２．論文標題 The Opposition Bloc in Ukraine: a Clientelistic Party with Diminished Administrative Resources	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Europe-Asia Studies	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09668136.2020.1770701	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大串敦	４．巻 676
２．論文標題 全人民の指導者：プーチン政権下のロシア選挙権威主義	５．発行年 2018年
３．雑誌名 国際問題	６．最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Atsushi Ogushi	４．巻 2
２．論文標題 Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Regime?	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Russian Politics	６．最初と最後の頁 287-306
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/2451-8921-00203002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大串敦	４．巻 922
２．論文標題 ウクライナ大統領選 圧勝の背景	５．発行年 2019年
３．雑誌名 世界	６．最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 Atsushi Ogushi
2．発表標題 The Opposition Bloc: A Clientelistic Party with Fewer Administrative Resources
3．学会等名 Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Atsushi Ogushi
2．発表標題 Populism or Machine Politics? Contextualisation of the 2016 Duma Election
3．学会等名 British Association for Slavonic and East European Studies（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Atsushi Ogushi
2．発表標題 Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Politics After the Ukrainian Crisis
3．学会等名 Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies（国際学会）
4．発表年 2016年

1．発表者名 Atsushi Ogushi
2．発表標題 Russian Deputy Ministers: Patrimonial or Technocratic Elites?
3．学会等名 International Symposium, ‘Global Crisis of Democracy? Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism', Slavic Research Center（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Atsushi Ogushi
２．発表標題 Toward a Party System Collapse? Chaotic Elite Realignment in Ukraine
３．学会等名 The 10th East Asia Conference on Slavic Eurasian Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大串敦
２．発表標題 プーチンのグランド・ストラテジー？―ロシアの紛争介入を事例として
３．学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 川中豪、重冨真一、湊一樹、間寧、牧野久美子、大串敦、馬場香織、菊池啓一	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 270
３．書名 後退する民主主義、強化される権威主義	

１．著者名 松戸清裕、野部公一、徳永昌弘、浅川あや子、河本和子、大串敦、油本真理、藤沢潤、佐々木卓也、湯浅剛	４．発行年 2017年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 302
３．書名 ロシア革命とソ連の世紀　3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際ワークショップ組織・報告
Political and Economic Elites in Russia and Ukraine in Comparative Perspective、16 February 2018, Aleksanteri Institute, University of Helsinki. http://www.helsinki.fi/aleksanteri/english/news/events/2018/elites-in-Russia-and-Ukraine.html

International Workshop: Political and Economic Elites in Russia and Ukraine, 7 March 2019, Keio University.

国際学会でのパネル組織
Rebuilding a State in Post-Maidan Ukraine, The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, June 29-30, 2019, University of Tokyo, Hongo Campus.

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ゲリマン　ウラジーミル (Gel'man Vladimir)	ヘルシンキ大学・Faculty of Art・Professor	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	オリガ　クリィシタノフスカヤ (Olaga Kryshtanovskaya)	社会学アカデミー・Center of Elite Studies・Principanl Researcher	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ステツキウ　アルセン (Stetskiv Arsen)	ラズムコフ・センター・Political and Legal Programs・Expert	